

SLAVIC-EURASIAN RESEARCH

CENTER NEWS No. 149 June 2017

研究の最前線

◆ 2017年度夏期国際シンポジウム ◆

《中国とロシア・北東アジアの断層線：百年にわたる競争的協力》の予告

2017年7月13-14日に、ロシアと中国の戦略的パートナーシップの歴史と現在、そして将来を展望するシンポジウムがセンター恒例の夏の行事として開催されます。北東アジア地域でもっとも大きく、また強大なパワーをもつロシアと中国の関係はまさに地域の将来を決めるものと言えます。さらにロシアと米国の間の高まる緊張および中国の日本に対する関与の変化が中露二国間の関係を複雑にさせています。今回のシンポジウムではロシア、中国、その他の国の専門家が集い、世代を超えた日本の中露関係の研究者がこれと切り結びます。ご関心をお持ちの方の参加を歓迎します。[ウルフ]

Northeast Asia's Fault-line: One Hundred Years of Sino/Russian/Soviet Competitive Cooperation July 13-14, 2017

Session 1: Russia Looks East, China Moves West: Foreign and Security Policies

Chair: Manabu SENGOKU (SRC)

Hiroshi YAMAZOE (National Institute for Defense Studies, Japan)

“Russia’s Military Policy and the China Factor”

Mihoko KATO (SRC/National Institutes for the Humanities)

“‘Sinocentrism’ in Russia’s Reorientation to the East: Constraint or Stabilizer?”

Chisako T. MASUO (Kyushu University)

“Russia’s Value for China in the Global Context” (tentative)

Commentators: YANG Cheng (Shanghai International Studies University);

Paul EVANS (University of British Columbia)

Session 2: Regional Powers and Northeast Asian Relations in Historical and Theoretical Perspectives

Chair: Yoshifumi NAKAI (Gakushuin University)

Andreas HILGER (German Historical Institute Moscow)

“Regional Configurations and Global Problems: India, Northeast Asia, and the Cold War”

Yasuhiro IZUMIKAWA (Chuo University)

“Alliance Politics in 1950s East Asia: A Perspective from the Dynamic Theory of Alliances” (tentative)

David WOLFF (SRC)

“Great Octobers: Russia’s Revolutions, the Russo-Chinese Borderlands and the Rise of China”

Commentator: Akira ISHII (University of Tokyo, emeritus)

Session 3: The Russian Far East and the Russo-Chinese Border Zone

Chair: Sergey RYAZANTSEV (RAS/MGIMO)

Bhavna DAVE (London School of Economics)

“Priority Development of the Russian Far East: Prospects and Pitfalls”

Sören URBANSKY (University of Cambridge)

“From Friend to Foe: The Sino-Soviet Border during the 1960s and 1970s”

Norio HORIE (University of Toyama)

“Soybeans and Chinese Farmers in the Borderlands of the Russian Far East”

Commentator: Sergey RYAZANTSEV (RAS/MGIMO)

Session 4: Competitive Complementarities: Russo-Chinese Transnational Flows

Chair: Shinichiro TABATA (SRC)

Masumi MOTOMURA (Japan Oil, Gas and Metals National Corporation)

“Russo-Chinese Economic Cooperation in Oil and Gas Development” (tentative)

Viktor LARIN (Institute of History, Archaeology and Ethnology of the Peoples of the Far East, Russian Academy of Sciences)

“Russo-Chinese Economic Relations from Russia’s Perspective” (tentative)

LU Nanquan (Institute of Russian, Eastern European & Central Asian Studies, Chinese Academy of Social Sciences)

“Sino-Russian Economic Relations from China’s Perspective” (tentative)

Commentator: Kazuko MORI (Waseda University, emeritus)

Session 5: Northeast Asia Viewed from Outside: Three Perspectives

Chair: Akihiro IWASHITA (SRC)

Ulises GRANADOS (Instituto Tecnológico Autónomo de México)

“Sino-Russian Competition/Cooperation in Latin America”

Adiya NYAMDOLJIN (Institute of International Affairs, Mongolian Academy of Sciences)

“Mongolia’s View on Sino-Russian Relations”

Ajay PATNAIK (Jawaharlal Nehru University)

“Russia-China Relations: An Indian Perspective”

Commentator: Akihiro IWASHITA (SRC)

◆ NIHU 北東アジア地域研究：ホームページをリニューアルしました！ ◆



ロゴマーク

東北大拠点共催・国際シンポジウム(10月)と主催・関連イベントが目白押しです。活動内容や、セミナー等の速報は随時ホームページ上で公開していく予定です。

また、北大拠点のロゴマークが出来ました。[加藤]

人間文化研究機構北東アジア地域研究推進事業の北大拠点では、ホームページをリニューアルし、4月から公開しております。また、国際発信力を高めるため、英語版のサイトも新たにオープンしました。

<https://hokudaislav-northeast.net/>

本事業も2年目に入り、活動が軌道に乗ってきました。今年度は、公開講座「境界地域から北東アジア国際関係を考える」(5月)に始まり、夏期国際シンポジウム・サマースクール(7月)、

◆ 公開講座「境界地域から北東アジア国際関係を考える」開講 ◆

習近平の下、強硬化し強大化する中国、硬軟とりまぜ勢力拡大の機会をうかがうプーチンのロシア、トランプ政権下の米国の暴走、朴槿恵罷免により混迷する韓国、テロと独裁を強化する金正恩の北朝鮮、そして高支持率を保ちながらも先行き不透明な安倍政権下の日本。今年度の公開講座「境界地域から北東アジア国際関係を考える」は、まとまりのないままに激しく揺れ動く「北東アジア」の現状を読み解き、「境界」をキーワードに、足元から再構築する試みでした。[高橋]

日程	講義題目	講師
第1回 5月8日(月)	ボーダースタディーズから考える北東アジア	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授 岩下明裕
第2回 5月12日(金)	中国の「一帯一路」構想と北東アジア	九州大学大学院比較社会文化研究院 准教授 益尾知佐子
第3回 5月15日(月)	境界地域(＋「近隣⇔中心⇔周辺」)から北朝鮮をめぐる国際関係について考える	島根県立大学総合政策学部 教授 福原裕二
第4回 5月19日(金)	海を越え響き渡るアリランの唄：越境する人々たちの物語	北海道大学大学院公共政策学連携研究部 講師 池直美
第5回 5月22日(月)	軍事・安全保障から見た日露関係と北方領土問題	公益財団法人未来工学研究所 客員研究員 小泉悠
第6回 5月26日(金)	「川の向こう岸」と「海外」：ボーダーとしての宗谷海峡	山形大学人文社会科学部 准教授 天野尚樹
第7回 5月29日(月)	北東アジアにおける北海道：危機と機会	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授 岩下明裕 公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター 上席研究員 高田喜博

◆ 専任・非常勤研究員セミナー ◆

ニュース前号以降、専任研究員セミナー等が以下のように開催されました。

専任研究員セミナー

2月15日：ウルフ・ディビッド“Great Octobers: Russia, Harbin and the Rise of China”

コメンテータ：池田嘉郎（東京大学）

ロシア革命100周年を迎え、各地で研究集会や出版物が計画されていますが、ウルフ氏が今回提出した論考も、ある雑誌に収録予定のものであります。それは、3000語という厳しい制約の中で、帝政末期から現代までを視野に収め、境界地域と人間の移動を介したロシア／ソ連と中国との（協力と対立を含む）相互関係の深さを浮き彫りにするものでした。池田氏は、両国の相互関係の中で、のちに第三世界の指導者が利用できる形の「強制的近代化」のモデルが彫琢されたのではないかと議論を補足しました。

論考は、1) 革命前のハルビンのロシア人自由主義者が中国の国民主義者に与えた影響、2) 十月革命を機に民国軍がおこなったハルビン侵攻、3) ペレストロイカの結末とそれに対する中国の反応に関わる象徴的なエピソードを効果的に配置する方法を採用していました。しかしそれゆえに会場の議論では、1917年に先立つ1911年の辛亥革命とロシアの帝国主義との関係をどのように考えるか、「革命思想」の共有という観点から通時的に分析するのは無理があるのではないかとといった疑問が出されました。また、中国人や中国研究者がロシア／ソ連の影響を重視しないという立場にロシア研究者はどのように反論できるかという問い

は、隣接する地域の専門家にロシア研究を読んでもらうにはどうすればよいかという大きな課題を想起させました。[長縄]

2月28日：宇山智彦「権威主義の進化、民主主義の危機：世界秩序を揺るがす政治的価値観の変容」

コメンテータ：吉田徹（北海道大学法学研究科）

提出されたペーパーは、村上勇介・帯谷知可編著『秩序の砂塵化を超えて：環太平洋パラダイムの可能性』（京大学術出版会）に収録予定のものでした。トランプ政権の誕生をも視野に入れて、ポピュリスト権威主義が台頭している状況を理論的に捉えようとする意欲的な試みであると見受けました。とくに、ロシアと中国などが、このようなポピュリスト権威主義の先駆けあるいはモデルとなっているという主張は、斬新なものと思われるとともに、数年前の新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」の問題意識を思い出させるものでした。コメンテータの吉田氏は、2011年に『ポピュリズムを考える』（NHKブックス）を執筆されたポピュリズムの専門家であり、政治学の観点からコメントをされました。その後の議論では、権威主義や帝国の衰退プロセスなど、幅広い視点からの質疑がなされました。[田畑]

3月9日：田畑伸一郎「ロシアの統計制度の特徴と発展」

コメンテータ：上垣彰（西南学院大学）

提出されたペーパーは、『アジア長期経済統計 ロシア巻』（東洋経済新報社）に収録予定の論文で、帝政ロシア、ソ連、現代ロシアの各時代における統計制度の特徴およびその変遷を概観するものでした。まず帝政時代における国家統計とゼムストヴォ統計の併存および両者の特徴が論じられ、続いてソ連時代は3期に分けて分析され、最初にソ連初期における新しい集中型統計組織および方法論の模索、スターリン期における社会主義型統計手法モデルの形成とその特徴（例えば抽出調査から全数調査への移行）、ソ連後期の分散型統計組織編纂から集中型統計組織編纂への変化が論じられています。最後に現代ロシアに関しては、統計データの公表・刊行拡大、統計国際標準への移行、抽出調査への回帰が述べられました。コメンテータの上垣氏は、この分野の先行研究である山口秋義氏の著作に照らして田畑論文を整理し、ソ連・ロシアの統計制度の独自性、統計がソ連政権に持った意味、サービス産業の軽視がソ連経済の実態に与えた影響などの様々な質問を出しました。出席者からは統計手法や組織形態の変化の歴史・社会的背景などについて多くの質問が出され、また「ソ連統計は操作されているので信頼できない」という問題に関しても議論され、田畑氏からは問題の根本は数字の出し方にあるが、変化自体や傾向は分析されうることなどが述べられました。[野町]

3月27日：仙石学「ポーランドにおける財政規律：1997年憲法・3人の経済学者・トゥスクの功罪」

コメンテータ：森井裕一（東京大学）

今年度のセミナーで提出されたペーパーは、仙石氏が長年にわたって取り組んでいるネオリベラル研究と、欧州における財政規律の比較研究の双方を視野に入れて執筆されたものでした。本ペーパーでは、ポーランドにおける財政規律の長期的な政策変容が、ポーランドの内政要因、とりわけ、政権の性格、経済改革の担い手となった経済学者のイデオロギー等によって説明されています。コメンテータの森井氏は、EUにおける財政規律をめぐる状況、およびドイツとの比較の観点を踏まえ、仙石論文の意義を高く評価しました。その後、参加者からは内政要因以外の経済状況やEUとの関連、アクターの選好をどのように捉えるか、ポーランドの福祉政策の特徴などの論点が出されました。また、財政規律が他の政策領域よりも一段高く位置付けられている国とそうではない国がある等、他国との比較の可能性についても興味深い議論が展開されました。[油本]

3月29日：野町素己 “On the Kashubian Indefinite Marker Jeden ‘One’”; (with Bojan Belić)
“Banat Bulgarian and Bunyev: A Language Emancipation Perspective”

コメンテータ：服部文昭（京都大学）

提出されたペーパーは2つあり、1つは、英語の one に相当するカシュブ語の不定冠詞に関するもの、もう1つは、2016年度のセンターの外国人研究員 Bojan Belić さんとの共著で、セルビアのヴォイヴォディナ地方に住むバナト・ブルガリア人とブニエフ人を題材とした「言語解放」をめぐるものでした。いずれも、報告者が得意とする言語接触の問題と絡めた専門性の高いもので、いつもながら、言語学から遠い専門の者には、コメントするのがなかなか難しいものでした。しかし、政治言語学、社会言語学といった領域に位置付けられるものでもあり、討論のなかでは、言語解放という概念の意味、EUの政策との関わり、ドイツ語やポーランド語の影響、教会との関連性など、多岐にわたる議論がなされました。[田畑]

3月30日：家田修 「『ハンガリー社会経済史：貴族による近代化』から第一部のはじめに、第1章、第2章」

コメンテータ：辻河典子（近畿大学）

今回のペーパーは家田氏のライフワークの1つである近代ハンガリー経済史に関する単著の一部分で、主として全国農事協会の形成と発展、および1878年に開催された全国農業者大会に焦点を当て、啓蒙主義的な貴族による農業の近代化に向けての試みを分析したものです。コメンテータの辻河氏は日本との関連やハンガリーにおける「近代」の射程、ハプスブルク帝国における「文明化」との連関、対象とする読者など多岐にわたる論点を提示され、またディスカッションでも他地域（特にロシア）との比較や、ハンガリーにおける農奴解放の位置づけ、全国農事協会のハンガリー史における位置づけ、当時の国家・政府の役割、ハンガリーの貴族の特徴など、やはり多様な論点が提示されました。[仙石]

助教セミナー

2月28日：加藤美保子 「経済制裁下のロシアの東アジア外交：中国への接近と緊張の利用」

コメンテータ：佐橋亮（神奈川大学）

提出されたペーパーは、『海外事情』の「ロシア外交」特集に投稿予定のものでした。ロシア外交は変わったのか、とくに中口関係の位置付けは変わったのかについて解明しようとする試みでした。アメリカのアジア外交を専門とするコメンテータからは、ロシアの外交が変わったとする論理があまり明確でないという意見が出されました。ロシア側からの視点だけでなく、中国、日本、韓国、インドからの視点も入れられており、質疑のなかでは、短い紙幅のなかで、やや無理をされているのではというコメントもありました。取り上げているトピックが広範囲にわたっており、直近の日口関係の進展にも触れていることから、多くの論点について議論がなされたように思われました。[田畑]

3月21日：地田徹朗 「ブレジネフ期連邦構成共和国の政治と民族の問題：クルグズスタンを事例にして」

コメンテータ：塩川伸明（東京大学名誉教授）

提出されたペーパーは、宇山智彦編『越境する革命と民族』（岩波書店）に収録予定のものでした。クルグズスタンで長く第一書記を務めたウスバリエフによる民族政策や共和国政治の実態を検討して、ブレジネフ時代のこのような面での特徴を明らかにし、ソ連時代におけるブレジネフ時代の位置付けを明確にしようとする試みでした。コメンテータの塩川氏は、「封建領主」、クラン政治など様々な論点について、いつもながら細やかなコメントをされました。その後の質疑では、クルグズスタンにおける個々の現象やソ連全体の政策などをめぐって活発な議論がなされました。[田畑]

3月23日：油本真理 “The Policies of Anti-Corruption Campaigns in Putin’s Russia: Power, Opposition, and the All-Russia People’s Front”

コメンテータ：馬場香織（北海道大学法学部）

提出されたペーパーは、2016年12月のセンターの冬期国際シンポジウムで発表されたペーパーを改訂したものでした。ペーパーは、プーチン第3期政権が、腐敗問題の追及をかわすために、全ロシア人民戦線（ONF）を巧妙に利用しているとして、そのメカニズムを明らかにしようとする試みでした。コメンテータからは、権威主義体制の維持の政治学、官製運動の台頭とプーチン体制の変容という観点からのコメントが出されました。その後の質疑では、このメカニズムが体制エリートに本当に受け入れられているのかという質問や、報告者が以前扱っていた中央と地方の関係もこの文脈では重要ではないかといったコメントがありました。[田畑]

3月23日：菊田悠「重層的近代を生きる女性たち：ウズベキスタンにおけるケータイの普及とジェンダーへの影響」

コメンテータ：和崎聖日（中部大学）

提出されたペーパーは、ケータイ（携帯電話だけでなく、スマホなどを含む）の普及がウズベキスタンの女性の生活にどのような影響を与えているかに関する大変ユニークなもので、その影響が極めて大きいことがフィールドワーク（聞き取り調査）の結果によって示されました。ケータイの普及という独創的な視点は、コメンテータをはじめとする出席者から高く評価されました。質疑においては、報告者が重視する「重層的近代」という概念の妥当性、携帯電話とスマホでは意味合いが違うのではといった議論、2人のインフォーマントの代表性など、様々な論点が出されました。[田畑]

3月30日：高橋沙奈美「北ロシアにおける政治と文化遺産：社会主義の経験と景観表象の変容」

コメンテータ：川口幸大（東北大学）

今回のペーパーは高橋氏が参加しているプロジェクトの成果報告集『聖地の政治経済学：ユーラシア地域大国における比較研究』に掲載予定のもので、北ロシアのキジーとヴァラムの2つの事例をもとに、社会主義期における保存の形から現在の聖地ツーリズムに至るまでの経緯を比較検討したものでした。コメンテータの川口氏はロシアにおける「聖地」ないし「聖なるもの」の意味合い、この2つの事例を選んだ理由、およびこの2つの事例は「成功」なのかといった論点を中心にコメントがなされ、ディスカッションでも「聖なるもの」に関するさまざまな議論が提起されました。またこのペーパーにおける「政治経済」の意味や、高橋氏の研究の中での本論文の位置づけに関しても議論がありました。[仙石]

非常勤研究員セミナー

3月24日：神竹喜重子「グリゴリー・フリードの《アンネの日記》（1969）：「対話」としての芸術」

コメンテータ：大西郁夫（北海道大学文学研究科）

提出されたペーパーは、グリゴリー・フリード（1915～2012年）という作曲家によるモノオペラ「アンネの日記」に関するもので、それがどのような意図で書かれたものかを明らかにし、ロシア・ソ連音楽史上における位置付けを議論しようとするものでした。「対話としての芸術」というサブタイトルについては、コメンテータをはじめ何人かからその意味合いについての質問が出されました。また、フルシチョフ政権からブレジネフ政権に替わっていく時代状況の捉え方、そのなかにおけるフリードの立ち位置についても、いろいろな意見が出されました。[田畑]

◆ 研究会活動 ◆

- ニュース 148 号以降、センターでおこなわれた諸研究会活動は以下の通りです。[大須賀]
- 2月14日 SRC Seminar “Comparative Study on Political Commitment of Religious Organizations: Japan, Russia and Ukraine” 櫻井義秀 (北大・文) “Political Participation of Religion Related Organizations: Cases of ‘Japan Conference,’ ‘Federation for Victory over Communism,’ and Others”; Nikolay Mitrokhin (センター) “Russian Orthodox Church, Right and Ultra-right Groups in Contemporary Russia and Ukraine”
- 2月17日 Evgeny Golovko (ロシア学士院言語学研究所) 「今日のアラスカにおけるロシア語とロシア文化の影響の痕跡 (ロシア語)」 (SRC 特別セミナー)
- 2月18日 研究会「戦争と社会主義のメモリースケープ」 岡田知子 (東京外国語大) 「ボル・ポト時代の記憶と表象:1980年代の『国民歌』の受容」; 向後恵里子 (明星大) 「パノラミック・メモリー: 博物館のパノラマ・ジオラマと戦争のリアリティ」; 高山陽子 (亜細亜大) 「社会主義文化における英雄物語: 中国の烈士陵园の事例から」; 福田宏 (愛知教育大) 「ベトナム調査旅行報告」
- 2月27日 Workshop “For the 50th Anniversary of the 50th Anniversary of the October Revolution...: Social and Political Foundations of the Major Ideological Campaigns of the 1965-1970s” 越野剛 (センター) “Memory of War in Belarus: Literary and Visual Texts”; Zbigniew Wojnowski (センター) “Historical Memory and the Ethnic Foundations of Soviet Patriotism in Ukraine during the 1970s”; 高橋沙奈美 (センター) “Hidden Attachment to the Time Gone By: Image of the Last Tsar between the West and East”; Nikolay Mitrokhin (センター) “Ideological Campaigns of the Second Half of the 1960s and Consensus Formation of the Brezhnev’s Elite”; Felix Herrmann (ブレーメン大、ドイツ) “Centralization vs. Socialist Competition: Soviet Computer Experts and the Shaping of a New Industry in the 1960s and 1970s”; Alexander Titov (クイーンズ大ベルファスト、英国) “‘From Ethnos to Eurasia’: How Much Academic Freedom Was Allowed in the USSR under Early Brezhnev”; 地田徹朗 (センター) “Reflexive Modernization in the Soviet Union?: ‘Transformation of Nature’ Concept and the Aral Sea”
- 2月28日 Felix Herrmann (ブレーメン大、ドイツ) “The Discuss Data Online Platform: Sharing and Discussing Research Data on the Post-Soviet Region as a Collaborative Effort” (昼食懇談会)
- 3月1日 ティームール・ダダバエフ (筑波大) 「対中央アジア外交政策の日・中・露比較」; 田村容子 (福井大) 「1950年代の中国とソ連の芸術交流: 中国プロパガンダ芸術にみる社会主義の受容と移植」 (客員研究員セミナー)
- 3月4日 大谷茂之 (八雲町郷土資料館・八雲町木彫り熊資料館 学芸員)、荒木繁 (木彫家) 「旅する木彫り熊: アート・ツーリズム・境界」 (UBRJ セミナー)
- 3月5日 ワークショップ「東欧の『境界』における領域性・空間認識の比較研究」 香坂直樹 (跡見学園女子大) 「スロヴァキアの領域を科学的に把握する戦間期の試み」; 辻典子 (近畿大) 「トランシルヴァニアをめぐる学術政策と領土修正: 第二次ウィーン裁定後のコロジュヴァールを題材に (1940-44年)」; 森下嘉之 (茨城大) 「社会主義期における境界領域の『実体化』: チェコ国境地域 (Pohraničí) 研究の視点から」
- 3月7日 Marcin Kaczmarek (センター) “China’s New Silk Road and Russia’s Eurasian Union: Two Visions of a Regional Order” (センターセミナー)
- 3月8日 Bruce Grant (センター) “Anthropologies in and of the Former USSR” (センターセミナー)
- 3月9日 Seminar “Natural Disasters and Resource Usage in Mongolia and in Japan” Lhagvadorj Dorjburegedaa (モンゴル生命科学大) “Herders’ Livelihood, Education and Natural Resource Use at the Forest-Steppe Border of the Altay and Khangay Mountains in Mongolia”; Battur Soyollham (Bagatumurch Co. Ltd., モンゴル) “The Effect of Steppe Fires on Mongolian Herders and Ways to Reduce Losses”; 高倉浩樹 (東北大) “Why Intangible Cultural Heritage Is Necessary in Disaster Recovery Policy?” 福島チェルノブイリ研究会 土屋智子 (特定非営利活動法人 HSE リスク・シーキューブ) 「東海村での原子力安全にかんする NPO の活動について」
- 3月16日 北見諭 (神戸市外国語大) 「メシアニズムとミッションニズム: 第一次世界大戦期におけるロシアの宗教思想家の戦争論とネーション論」 (客員研究員セミナー)
- 3月17日 小椋彩 (東京大) 「ポーランドの亡命ロシア文学に関する研究」 (客員研究員セミナー)

- 3月21日 藤代節（神戸市看護大）「極北のチュルク語（ドルガン語）の『生態』について」（客員研究員セミナー）
- 3月24日 第20回スラブ・ユーラシア研究センター公開講演会 山村理人（センター）「スラブ・ユーラシア地域の農業問題：旧ソ連四カ国の比較で見えること」
- 3月28日 研究会「北極開発の論理と倫理」 片山博文（桜美林大）「アントロポセンの時代における北極」；後藤正憲（センター）「ロシア極北先住民によるローカルなアントレプレナーシップ」；徳永昌弘（関西大）「北極開発とロシア：開発と環境をめぐる言説分析」
プロジェクト研究会「ポスト・スターリン期のロシア農村における近代化と生活水準」 野部公一（専修大）「農村の近代化と生活水準の向上」；松戸清裕（北海学園大）「1950～1960年代のソ連における農村近代化の取り組み：対宗教政策としての側面」；日臺建雄（埼玉学園大）「スターリン期ソ連における市場メカニズムの機能：コルホーズ市場との関連で」（客員研究員セミナー）
- 4月24日 Zbigniew Wojnowski（センター）“The Near Abroad: Socialist Eastern Europe and Soviet Patriotism in Ukraine”（昼食懇談会）
- 4月27日 Alexandr Alexandrov（センター）“В помощь исследователю: российские электронные ресурсы и научные библиотеки”（センター特別講義）
- 5月10日 Zbigniew Wojnowski（センター）“Transnationalism and the Practice of Soviet History”（センター特別講義）
日口経済セミナー2017 安倍・プーチン首脳会談の成果と日口経済の展望：「日口経済協力」と「共同経済活動」の行方 下斗米伸夫（法政大）「日口関係史からみた首脳会談の成果と共同経済活動の意義」；本田良一（北海道新聞社）「日口漁業の実態と共同経済活動」
- 5月16日 Timothy Colton（ハーヴァード大、米国）“Is the Latest US-Russia Reset Dead on Arrival?”（SRC/UBRJ 特別講義）
- 5月31日 神竹喜重子（センター）「グリゴリー・ブリードのモノ・オペラ『アンネの日記』」；加藤美保子（センター）「ロシア外交における東方シフト：中国優先主義の問題を考える」（北海道スラブ研究会）

人事の動き

◆ 助教の就任 ◆

本年4月1日をもって、ジョナサン・ブルさんがセンター助教に就任されました（プロジェクト室）。ブルさんは北海道大学大学院法学研究科で権太及び日本の地域史を研究され、博士課程修了後は法学部で助教を務めておられました。今回、境界研究ユニットの助教であった地田徹朗氏の転出に伴い、後任として公募で採用されました。ブル氏の加入により、センターの英語での成果発信力がさらに高まることが期待されています。[岩下]

地田徹朗さんは退職・転出されました。[事務係]

◆ 特任助教・学術研究員紹介 ◆

後藤 正憲 2017年4月に就任(特任助教 3月まで本センター博士研究員)(プロジェクト室)
研究テーマ：北極域研究推進プロジェクト・北極の人間と社会：持続的発展の可能性

齋藤 慶子 2017年4月に着任(学術研究員)(プロジェクト室)
研究テーマ：境界研究、北東アジア地域研究(日露文化交流、特にバレエ交流史)

ククリナ、アレクサンドラさん(前学術研究員)は退職されました。[事務係]

◆ 2017年度の客員教授・准教授 ◆

公募していました客員教授・准教授は審査の結果、次の6名の方々をお願いするようになりました。[事務係]

氏名	所属	研究テーマ
大野 成樹	旭川大学経済学部	米国の伝統的・非伝統的金融政策がロシアの金融市場に与える影響に関する研究
北見 諭	神戸市外国語大学外国学部	ロシア宗教ルネサンスの生の思想と世界戦争
木村 護郎 クリストフ	上智大学外国語学部	境界研究にとっての「言語」：ドイツ・ポーランド国境地域の事例をもとに
ティムール・ ダダバエフ	筑波大学人文社会系	対中央アジア外交政策の米・日・中比較
月村 太郎	同志社大学政策学部	バルカン諸国の政治変動と国際関係
松澤 祐介	西武文理大学サービス経営学部	中東欧諸国のユーロ導入をめぐる比較研究

◆ 事務職員の異動 ◆

新任紹介：田中佐知子事務補佐員（事務室）
本間智子 事務補佐員は退職されました。[事務係]

学 界 短 信

◆ 学会カレンダー ◆

- 2017年6月3-4日 スラブ・ユーラシア研究東アジア・コンファレンス “Conflict and Harmony in Eurasia in the 21 Century: Dynamics and Aesthetics” 於ソウル
主催 The Korean Association of Slavic and East European Studies (KASEUS)
- 6月15-17日 第二回比較経済世界大会 於サンクトペテルブルク
<http://www.jaces.info/info.html>
- 6月17-18日 2017年度日本比較政治学会研究大会 於成蹊大学 <http://www.jacpnet.org>
- 6月29日～7月1日 Joint ESCAS (European Society for Central Asian Studies)-CESS (Central Eurasian Studies Society) Conference 於中央アジア・アメリカ大学（ピシケク）
<http://www.centraleurasia.org/regional-conf>
- 7月12-19日 2017 HOPS-SRC Border Studies サマースクール 於スラブ・ユーラシア研究センター
<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/ubrij/eng/events/archives/201707/12341.html>
- 7月13-14日 スラブ・ユーラシア研究センター夏期国際シンポジウム
- 9月16-17日 第57回比較経済体制学会全国大会 於関西大学千里山キャンパス
<http://www.jaces.info/info.html>
- 10月5-8日 18th Annual Conference of the Central Eurasian Studies Society (CESS) 於ワシントン大学（シアトル） <http://www.centraleurasia.org/annual-conf>
- 10月14-15日 日本ロシア文学会第67回全国大会 於上智大学 <http://yaar.jp.net>
- 10月14-15日 2017年度ロシア史研究会年次大会 於東京大学駒場キャンパス
http://www.gakkai.ac/russian_history/
- 10月21-22日 2017年度ロシア・東欧学会研究大会 於一橋大学 <http://www.gakkai.ac/roto/>
- 10月27-29日 2017年度日本国際政治学会研究大会 於神戸国際会議場 <http://jair.or.jp>
- 11月9-12日 49th Annual ASEES (Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies) Convention 於シカゴ <http://www.aseees.org/convention>
[編集部]

大学院だより

2016年度、大学院文学研究科スラブ社会文化論専修では、6名が修士課程を修了しました。また、長友謙治さんが「ロシアの穀物輸出国としての発展可能性と制約要因」という論文で課程博士号を取得しました。皆さんの諸方面での活躍をお祈りしています。

4月には、修士課程1名と博士課程3名の入学（うち1名は修士課程からの進学）がありました。今年度の大学院生は以下の皆さんです。[長縄]

2017年度スラブ社会文化論専修大学院生名簿

学年	氏名	研究題目	指導教員	副指導教員	博論指導
D3	秋月 準也	ミハイル・ブルガーコフと20世紀初頭のロシア文学	越野	野町	宇山
D3	アセリ・ビタバロヴァ	中央アジア諸国・中国間関係における相互認識	岩下	宇山	山村
D3	ヤン・ファベネック	オホーツク海域及びその沿岸地域をめぐる現代の地政学的課題	岩下	田畑	ウルフ
D3	小野 瑞絵	旧ソ連圏におけるイスラーム教育と政策の比較	宇山	長縄	
D3	服部 倫卓	ロシア・ウクライナ・ベラルーシの対EU経済関係	田畑	山村	仙石
D3	生熊 源一	戦後ロシア美術研究	越野	野町	ウルフ
D3	アリベイ・マムマドフ	言説・社会構築、分断空間論及び解決プロセスからみた境界紛争：北方領土問題とナゴルノ・カラバフ紛争を事例に	岩下	田畑	宇山
D1	寺岡 郁夫	ウクライナの構成地域とその形成過程	岩下	宇山	
D1	林 健太	ピョートル1世時代の官僚出版業と国家、出版言語	長縄	野町	
D1	ミルラン・ベクトゥルスノフ	ソヴィエト・キルギスの形成：中央政権と現地人エリートの関係を中心に	宇山	長縄	
M2	河津 雅人	現代ウクライナにおける投票地理と地方政治の関係性：ジトームィル州を事例として	仙石	宇山	
M2	上村 正之	ナポレオン戦争期のカザーク・イメージ	越野	宇山	
M2	千須和里美	カーリーニングラード周辺地域におけるロシア・EUの地域協力	仙石	岩下	
M2	武田 和浩	ロシアのビジネス立地と日本企業の進出形態の検討	田畑	山村	
M1	谷原 光昭	非承認国家と「帝国」	宇山	仙石	
研究生	マテウシュ・バビェノ	20世紀前半における日本の新聞の歴史	野町		
研究生	ヴィクトリア・アントネンコ	19世紀と20世紀におけるサハリンと日本との経済関係	ウルフ		

大学院修了者の声

社会人大学院生の経験から

長友謙治（2016年度博士課程修了／農林水産省 農林水産政策研究所政策研究調整官）

私は、国の行政官として長く働いてきました。なぜ大学院で勉強する気になったかといえば、理由は色々ありますが、一つだけ挙げるとすれば、同じ職場で年を重ねていくと、どうしても仕事の中心が組織の管理・運営になってきますが、もともと好きなのは自分の頭と手足を使って何かを作ることですから、時間切れになる前に、研究という分野で、それができるだけの能力を確立しておきたかったということかと思えます。

個人の事情はそこまでにして、ここでは、スラブ・ユーラシア研究センター（以下「スラ

ブ研」)の大学院である文学研究科スラブ社会文化論専修で研究してみようと思っている社会人の方に参考になるようなことを、私の経験からQ&Aの形でまとめてみました。少しでもお役に立てば幸いです。

Q：なぜスラブ研の大学院を選んだのですか？

A：私が研究対象とするロシアの農業・農政、それも経済史ではなく現在の農業・農政を専門とする研究者は、現役では日本全国で5人もいないと思います。その一人である山村先生がスラブ研におられたことが志望を決めた最大の理由でした。

お恥ずかしいことに入ってから知ったのですが、スラブ研は、我が国におけるスラブ・ユーラシア地域研究の拠点と位置づけられているだけあって、この地域の研究に関しては、様々な分野の第一線の先生方が集まっており、図書館に収蔵されている文献の質・量も全国有数です。セミナーや研究会などで内外の大学や研究機関の専門家と接する機会もしばしばあります。自分の専門分野を深めるだけでなく、地域研究者としてバックグラウンドを広げることができますので、今から振り返ると、これが大変良かったと思います。

Q：札幌に住んで大学に通わないと博士号は取れませんか？

A：修士課程は、ゼミ形式の授業で多くの単位を取らなければならないので、札幌に住んで大学に通う必要があります。私も修士課程では職場を休職して札幌に2年間住みました。

一方、博士課程では修士課程のような授業はありませんので、最初から東京の職場で勤務しながら、前期・後期各数回札幌に行くという形でした。スラブ研の大学院では、毎週金曜日に院生全員参加の「総合演習」というものがあり、院生は前期、後期とも一回ずつ、ここでの報告を求められます(博士課程では必修単位にはならないが、専修において総合演習への参加を義務付け)。そのため博士課程の院生も、少なくとも各期に1回は札幌に行きます。このほか必要に応じて指導教員と相談するために札幌に行くことになります。博論の提出が近づくにつれて札幌に行く回数が多くなりますが、それでも総合演習の1回も含めて半期に2～3回でした。

なお、私の場合、修士号を持たず、実務上の研究実績もない状態で始めたので、修士課程から入りましたが、修士号がなくても研究実績などがある場合には、直接博士課程に入ることが認められる場合もあるようですから、文学研究科のウェブサイト*で募集要項を読んだうえで、教務係などに確認されるとよいと思います。

* <https://www.let.hokudai.ac.jp/examination-gs/apply/>

Q：博士論文は3年で書けますか？

A：可能ですが、率直に申し上げて容易ではないと思います。私の場合は、博士課程に5年間、修士課程に3年間(実質的には最初の半年を除く2年半)かかりました。博論の内容の3分の1強を修士課程での成果が占めていることを考えれば、大学院に入ってから博論を仕上げ、博士号を頂くまでには足かけ8年を要したことになります。とはいえ、これはほとんどゼロから研究を始めた場合のことですから、すでに修士号をお持ちか、相当する研究実績がある方で、既に博論の種がある程度揃っているなら、3年での博士課程修了も可能だろうと思います。

しかし、それは結構大変です。指導教員から博士論文執筆のゴーサインを頂くための目安としては、査読付き論文を3本書かなければなりません。査読付き論文を1本書こうとすれば、一応の形ができた段階で学会報告を行い、そこでの指摘を踏まえて論文を仕上げ、学会誌に投稿し、レフェリーによる査読を受けて修正し、採択されてようやく掲載となりますので、この一サイクルには少なくとも1年程度はかかります。したがって、博士課程を3年で終えるというのは最小限の期間です。



コンバインによる小麦収穫のデモンストレーション（ロシア・アムール州）

私の場合、官庁の文書を書くことには長い経験を持っていたのですが、学術論文にはまた独特のものがああり、何をテーマに選び、どのような作法に従って書き、どの程度の分量でまとめるか、そこは別のスキルが必要になります。また、研究内容が経済分野に関係していれば、ある程度は計量的な分析手法を習得することも必要になります。このあたりは、指導教員から御指導を頂きつつ、論文の査読でレフェリーから頂く厳しい御指摘に対応していく中で身につけていくことになります。私は、これらに時間を要したことに加え、職場の仕事もありましたから、結局博士課程に5年在籍することになったように思います。

社会人で、かつ仕事もしながら、という条件であれば、無理に3年と考えずもう少し気長に考えた方が良いでしょう。授業料の方は、休学を間に入れることなどによって負担を増やさないことができます。そのあたりは、教務係とよく相談されるとよいと思います。博士の就職が厳しい中で、職を持っていて後顧の憂いがないのが社会人大学院生の最大にしておそらくは唯一の強みですから、ここはある程度気長に考えた方が良いでしょう。

最後に、指導教員の山村先生、田畑先生をはじめ、スラブ研の先生方及び職員の皆様には長い間大変お世話になりました。心よりお礼申し上げますとともに、これからも引き続きよろしく願い申し上げます。

(2017年4月11日)

図書室だより

◆ ソ連共産党・国家文書の購入状況 ◆

1995年度に始まったチャドウィック・ヒーリー社から発売の、モスクワの3つの文書館の文書を収録するマイクロフィルム《Archives of the Soviet Communist Party and Soviet State》の収集は、昨今の資料費の急減もあり、残念ながらこのごろは遅々として進みませんでしたが、最近、ある程度まとまった部分を購入できましたので、お知らせ申し上げます。

この春購入したのは、ロシア現代史文書保存研究センター（РЦХИДНИ、1999年にロシア政治・社会史国家文書館 РГАСПИ に改組）のフォンド17 ソ連邦共産党中央委員会から、オー

ピシ2 中央委員会総会 1918-1941 年分 88 巻中の 61 巻、同フォンド オーピシ 86 書記局
ビューロー 1918-1934 年 17 巻、同フォンド オーピシ 109 国防関係文書集 1917-1924 年 24 巻、
フォンド 38 ロシア社会民主労働党第 4 回党大会 (1917 年) 1 巻、フォンド 58 ロシア共産
党 (ボ) 第 16 回党大会 (1930 年) 20 巻中の 6 巻です。なお、フォンド 58 については、すで
に 12 巻購入済みのため、残り 1 巻となりました。

また、ロシア連邦国家文書館 ГАРФ のフォンド r393 ロシア・ソヴィエト共和国内務省
1917-1931 年からは、オーピシ 23A 中央民警局 1920-1923 年の一部 (88 巻中 22 巻) と、同フォ
ンド オーピシ 43A 中央管理局秘密文書 1921-1929 の一部 (261 巻中 13 巻) を購入しました。
このフォンド 43A の最初のリールを開くと、朝鮮人団体関係の文書が集中しているようで、
よく調べると新しいことがいろいろ判るかも知れません。

これらのフィルムは、すでに整理を終えて、通常通り図書室で利用可能となっています。[兔内]

編集室だより

◆ Slavic Eurasian Studies 31/Studije o Srbima 22 ◆

Serbica Iaponica: Doprinis japanskih slavista srpskoj filologiji の刊行

SES 31 号は、これまでの論集と様々な点で違います。まず、すべ
てセルビア語による研究論集であり、次にセルビアの最も重要な文
化研究機関であるマティツァ・スルプスカ (Matica srpska) との共
同刊行でもあるということです。タイトルは「日本人スラブ学者に
よるセルビア言語文化研究への貢献」という意味で、主に日本語で
刊行された様々な日本人研究者によるセルビア言語、文学、フォ
ークロア研究の論文を、セルビア語に翻訳した論集です。

本邦ではロシア言語文化研究以外のスラブ学は比較的控えめで、
旧ユーゴスラヴィアの言語文化研究も例にもれません。本格的に研
究成果が出はじめたのは 1980 年代頃で、先行研究や文化の単なる
紹介ではない独自の研究成果が少しずつ現れてきましたが、それ
でも日本語による発表が多かったため、現地ではその成果は、ほぼ知られていませんでした。
これに鑑み、本邦の主要なセルビア言語文化研究者の論文のうち、独自性が高いと思われる
ものを選び、セルビア語で紹介するのが本論文集の意図するところです。マティツァ・スル
プスカの Studije o Srbima は外国人によるセルビア言語文化研究を紹介するシリーズで、こ
れまでウンベガウン、ネヴェクロフスキ、ニキータ・トルストイといった数々の著名なセル
ビア学者の著書がこのシリーズで翻訳・刊行されていますので、この論集がその 1 冊に含め
られたのは大変名誉なことと言えます。

本研究論集の書評会がベオグラード (3 月 23 日) およびノヴィ・サド (3 月 24 日) でおこ
なわれ、関係者から高い評価をいただきました。[野町]

http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no31_ses/index.html



◆ 『スラヴ研究』 ◆

『スラヴ研究』第 64 号は 13 本の投稿のうち、以下の力作を掲載することになりました。

(論文)

村田優樹 第一次世界大戦、ロシア革命とウクライナ・ナショナリズム

- 小澤裕之 ファウストの軌跡：ハルムス『報復』におけるモチーフの研究
北見 論 セルゲイ・ブルガーコフの経済哲学におけるマルクス主義とソフィア論
松寄英也 クリミア自治共和国の再建（1987-1991）：クリミア・タタール人の帰還運動との関連を中心に

〈研究ノート〉

- 本田晃子 地下鉄言説の解体：ゲオルギー・ダネリヤ監督作品『僕はモスクワを歩く』と『ナースチャ』における地下鉄空間
高橋健一郎 ニコライ・クリピンの「自由音楽論」解説の試み：芸術のコンテクストにおけるロシア・アヴァンギャルド音楽の基本理念

丁寧な査読をしてくださったレフェリーの皆様に御礼を申し上げます。残念ながら不採用となった方も、次回以降ぜひ再挑戦して下さい。次の第65号の原稿締め切りは、2017年8月末の予定です。センターのホームページに掲載されている投稿規程・執筆要領等を熟読のうえ、締切厳守でご提出ください（事前申し込みは不要です）。[長縄]

◆ ACTA SLAVICA IAPONICA ◆

Acta Slavica Iaponica 第38号は、5月に刊行されました。内容は以下の通りです。次号の締め切りは2017年7月14日です。ふるってご投稿ください。[野町]

ARTICLES

- Jane Burbank Supervising the Supervisors: Bureaucracy, Personality and Rule of Law in Kazan Province at the Start of the 20th Century
Павел Шаблей Семья Яшуевых и ее окружение: ислам и дилеммы властных отношений в Российской Империи во второй половине XIX - начале XX вв.
Theodore Weeks Whose City? Vilnius during World War I between Poles, Russians, Jews, and Lithuanians
Umut Korkut Resentment and Reorganization: Anti-Western Discourse and the Making of Eurasianism in Hungary
Томир Каландаров Косточка сладкая, на чужбине я...: поэзия таджикских трудовых мигрантов в России

SOURCE STUDIES

- Елена Кириллова Письма к Иоанну Кронштадтскому как источник для изучения настроений в российском обществе начала XX века

FEATURED REVIEW

- Dieter Stern Gerd Hentschel, Oleksandr Taranenکو, and Sjarhej Zaprudski, eds., *Trasjanka und Suržyk - gemischte weißrussisch-russische und ukrainisch-russische Rede. Sprachlicher Inzest in Weißrussland und der Ukraine?* (Frankfurt am Main: Peter Lang, 2014), 394 pp.

REVIEW ARTICLE

- Catherine Gibson History, Memory, and Urban Symbolic Geographies: Recent Contributions to the Historiography of Vilnius
Theodore R. Weeks, *Vilnius between Nations, 1795-2000* (DeKalb, IL: Northern Illinois University Press, 2015), 308 pp.
Dangiras Mačiulis and Darius Staliūnas, *Lithuanian Nationalism and the Vilnius Question, 1883-1940* (Marburg: Herder Institut, Studien zur Ostmitteleuropaforschung, 2015), 236 pp

BOOK REVIEWS

- Shirin Akiner Joanna Kulwicka-Kamińska, *Przekład terminologii religijnej islamu w polskich tłumaczeniach Koranu na tle biblijnej tradycji translatorycznej* (Toruń: Wydawnictwo naukowe Uniwersytetu Mikołaja Kopernika, 2013), 357 pp. with attached CD-Rom.
Tomasz Kamusella Jolanta Sujecka, ed., *Macedonia: Land, Region, Borderland* [Ser: Colloquia Balkanica, Vol 2] (Warsaw: Wydawnictwo DiG and Faculty of Artes Liberales, University of Warsaw, 2013), 581 pp.

- Nakada-Amiya Mizuho Stefano Bianchini, *Eastern Europe and the Challenges of Modernity, 1800–2000* (London and New York: Routledge, 2015), 288 pp.
- Sengoku Manabu Gyula Horváth, *Spaces and Places in Central and Eastern Europe* (London and New York: Routledge, 2015), 272 pp.

◆ 『境界研究』 第 7 号刊行 ◆

昨年度末に『境界研究』第7号が刊行されました。論文2本、研究ノート1本、資料紹介1本、書評2本を収録しています。第一次世界大戦勃発を引き起こしたオーストリア＝ハンガリー二重君主帝国による「最後通牒」、17世紀半ばから18世紀前半の南インドの港町マドラスにおける「境界」についての論考が含まれています。古文書や統計データを駆使したものから、オーラル・ヒストリーの手法を利用したものまで、研究対象へのさまざまな取り組み方も興味深く、中身の濃い充実した内容となっています。すべての論考がこちらのウェブページからダウンロード可能です。[斎藤]

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publicn/JapanBorderReview/no7/index.html>

【論文】

- 村上亮 オーストリア＝ハンガリー二重君主国による「最後通牒」(1914年7月23日)再考:F. ヴィースナーの『覚書』にみる開戦決断の背景
- 和田郁子 港町マドラスにみる「境界」:17世紀のクリスチャン・タウンと「ポルトガル人」

【研究ノート】

- 南波慧 EU国境地域における<境域>のポリティクス:欧州移民規制レジームの構築とチュニジア人難民

【資料紹介】

- 菅野敦志 沖縄出身米留経験者の台湾疎開:伊志嶺朝三オーラルヒストリー

【書評】

- 近藤祉秋 大石高典著『民族境界の歴史生態学:カメルーンに生きる農耕民と狩猟採集民』
- 藪野祐三 陳天璽、大西広之、小森宏美、佐々木てる編著『パスポート学』

◆ Eurasia Border Review 7(1) 刊行 ◆

境界研究ユニット (UER) が刊行する英文学術誌である *Eurasia Border Review* の Vol. 7, No. 1 が刊行されました。日本、インド、アメリカで活動する研究者たちによる、論文3本、書評1本が収録されています。論文では、ジョージアと南オセチア間の境界化、シリア内戦勃発後のトルコの国境警備体制の変化、ベーリング海域における米露関係の発展といったテーマが扱われています。そのほか、今回はボーダー・ジェンダー研究に関する特別コーナーが設けられています。すべての論考がこちらのウェブページからダウンロード可能です。[ブル]

http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publicn/eurasia_border_review/vol7no1.html

ARTICLES

- Edward Boyle Borderization in Georgia: Sovereignty Materialized
- Kohei Imai Rethinking the Insulator State: Turkey's Border Security and the Syrian Civil War
- Serghei Golunov The Russian-U.S. Borderland: Opportunities and Barriers, Desires and Fears

SPECIAL SECTION: BORDER AND GENDER STUDIES

- Kimberly Collins Introduction to "Border and Gender Studies: Theoretical and Empirical Overlap"
- Guadalupe Correa-Cabrera and Jennifer Bryson Clark Re-victimizing Trafficked Migrant Women: The Southern Border Plan and Mexico's Anti-trafficking Legislation
- T. Mark Montoya Bad Fences Make Bad Neighbors: Challenging the Citizenship Regime in the U.S.-Mexico Borderlands

BOOK REVIEW

- Uddipta Ranjan Boruah Reece Jones, *Violent Borders: Refugees and the Right to Move*, London: Verso: 2016. 224pp.

会 議 (2017年2月)

◆ センター協議員会 ◆

2016年度第7回 2月7日(火)

議題

1. 助教候補者の選考について
2. 特任助教の人事について
3. 客員教授・准教授の選考について
4. 部局間交流協定の締結について
5. 研究生の受入(継続)について

2016年度第8回 2月21日(火)

議題

1. 特任助教人事に関する選考委員会報告について
2. 2017年度非常勤講師の採用について

2016年度第9回 2月28日(火)

議題

1. 助教候補者の選考について

[事務係]

誰が何をどこで

2016年度(4~3月)の専任研究員・助教・客員教授・非常勤研究員・博士研究員の研究成果、研究余滴のアンケート調査(提出は任意)を以下のようにまとめました。〔五十音順〕〔大須賀〕

油本真理 ㊦ 5学会報告・学術講演 ▼プーチン再登板後のロシアにおける政権と野党: 政治体制の正統性をめぐる攻防, ロシア・東欧学会・JSSEES 2016年合同研究大会共通論題「漂流する世界とプーチンのロシア」, 京都女子大学 (2016.10.29) ▼The Politics of Anti-Corruption Campaigns in Putin's Russia: Power, Opposition, and the All-Russia People's Front, Winter International Symposium of the SRC "25 Years After: Post-Communism's Vibrant Diversity," SRC (2016.12.9)

岩下明裕 ㊦ 1学術論文 ▼(高木彰彦と) ボーダースタディーズへの招待: 連載をはじめにあって『地理』61: 68-74 (2016.4) ▼構築される領土: 竹島、尖閣、北方領土『地理』61:73-81 (2016.11) ▼Borders Inside and Outside Alliances: Russia's Eastern Frontiers during the Cold War and After, *Journal of Borderlands Studies*, 32(1): 55-70 (2017) ㊦ 2その他業績(論文形式) (5) その他 ▼世界はボーダーフル『西日本新聞』全50回(2016) ▼安倍首相は元島民の声を聴いたのか『マスコミ市民』577:45-47 (2017) ▼二〇一六年一二月安倍・プーチン会談によせて: 遠ざかる「我が国、固有の領土」『學士會会報』923:23-27 (2017) ㊦ 5学会報告・学術講演 ▼Featuring a Functional Tool as a Compass for Comparative Border Studies: From the Experiences of Asian and Eurasian Cases, *Association for Borderlands Studies*, リノ, 米国 (2016.4.7) ▼Tourism as a New Tool for Remaking the Borderlands: The Try-out on the Japan, Border Regions in Transition XV, ハーフエンシティ大学, ハンブルク (2016.5.17)

宇山智彦 ㊦ 1学術論文 ▼Восстание, рожденное в войне: влияние Первой мировой войны на катаклизмы в Центральной Азии в международном контексте (*Туркестанское восстание 1916 г.: факты и интерпретации: материалы Международной научной конференции*, 77-86, М.: ИРИ РАН, 2016) ▼Почему крупное восстание произошло только в Центральной Азии? Административно-институциональные предпосылки восстания 1916 года (*Международное научное совещание «Переосмысление восстания 1916 года в Центральной Азии»: сборник статей*, 104-112, Бишкек: Нео Принт, 2017) ㊦ 2その他業績(論文形式) (1) 総説・解説・評論等 ▼権威主義ロシアの「帝国」化の賭け: 旧ソ連諸国統合・反米主義・対中接近(村上勇介編『BRICs 諸国のいま: 2010年代世界の位相』[CIAS Discussion Paper Series 57] 11-15, 京都大学地域研究統合情報センター, 2016) ▼頑健な権威主義体制の行方: ウズベキスタン・カリモフ大統領の死『世界』29-32 (2016.11) (3) 書評 ▼湯浅剛著『現代中央アジアの国際政治:

ロシア・米欧・中国の介入と新独立国の自立』『ロシア・東欧研究』44:104-107 (2016) (5) その他 ▼〔講演記録〕新しい「帝国」時代の中央アジア国際関係 (『平成 27 年度 IIST・中央ユーラシア調査会報告集～中央ユーラシアへの多角的アプローチ～ Vol. 15』40-42, 一般財団法人貿易研修センター, 2016) ▼〔インタビュー〕Дипломатию Казахстана можно назвать многовекторной только условно, Саясат: Все о политике в Казахстане (2016.6.17) <<http://sayasat.org/articles/1646-tomohiko-ujama-djipomatiju-kazahstana-mozhno-nazvat-mnogovektornoj-tolko-uslovno>> ▼〔インタビュー〕ウズベクの後継大統領は「露の圧力かわせるか」『産経新聞』(2016.9.7) ▼〔新聞論説〕首脳会谈暴露日俄認知隔阂『聯合早報』17 (2017.1.3) ▼〔雑誌論説〕Japan and Russia: Time to Bridge the Perception Gap, *The Japan Journal* 13(10):12-14 (2017.1) ▼〔インタビュー〕Современный Казахстан – это первое полноценное национальное государство с развитыми институтами политики и экономики в истории казахов, Саясат: Все о политике в Казахстане (2017.2.28) <<http://sayasat.org/articles/1874-tomohiko-ujama-sovremennij-kazahstan-eto-pervoe-polnocennoe-nacionalnoe-gosudjarstvo-s-razvitymi-institutami-politiki-i-ekonomiki-v-istorii-kazahov>> ¶5 学会報告・学術講演 ▼帝国・周縁関係における利害と感情：関係性比較の方法の構築に向けて、パネルディスカッション「ユーラシア地域大国を考える」：「シリーズ・ユーラシア地域大国論」(ミネルヴァ書房) 完結記念, SRC (2016.5.14) ▼A Rebellion Born in the War: The 1916 Revolt in Institutional, Social, and International Contexts, International Scientific Workshop: Rethinking the 1916 Uprising in Central Asia, American University of Central Asia, Bishkek (2016.5.20) ▼Влияние войны и международной обстановки на восстание 1916 г.: изменения восприятия имперской власти народами Центральной Азии, Международная научная конференция «Туркестанское восстание 1916 г.: факты и интерпретации», Российская академия наук (2016.5.23) ▼民主主義への挑戦か、主権と覇権の追求か：ロシアの対ユーラシア・対欧米戦略, ロシア・東欧学会 2016 年度大会共通論題パネルディスカッション, 京都女子大学 (2016.10.29) ▼Основные интересы Японии и перспективы сотрудничества с Китаем и Россией в Центральной Азии, Central Asia at the Crossroads: The Interests of Global and Regional Players, Carnegie Moscow Center (2016.11.1) ▼Uneasy Companions: Relations between the Soviets and Former Activists of the Alash Orda, The 17th CESS (Central Eurasian Studies Society) Annual Conference, Princeton University (2016.11.5) ▼Японско-центральноазиатские отношения в глобальном контексте, 中央アジア諸国日本研究カンファレンス, カザフ国立大学東洋学部 (2017.2.18)

ウルフ・ディビッド ¶2 その他業績 (論文形式) (3) 書評 ▼(Sergey Radchenko, Jeremy Friedman, Austin Jersild, Deborah Kaple, Steven I. Levine, Niu Jun と) Roundtable Book Review of Zhihua Shen and Yafeng Xia, *Mao and the Sino-Soviet Partnership, 1945-1959: A New History*. New York: Lexington Books, 2015, *H-Diplo*, XVIII(17) (2017.2.27) <<https://networks.h-net.org/node/28443/discussions/168915/h-diplo-roundtable-xviii-17-mao-and-sino-soviet-partnership-1945>> ¶5 学会報告・学術講演 ▼Russia's Great Eurasian War and Revolution: The Mega-Project, 東アジア近代史学大会, 東京 (2016.7.2) ▼Russia's Great War and Revolution: The Northeast Asian Front – An Overview of the Forthcoming Volume, 48th Annual Convention of Association for Slavic, East European and Eurasian Studies (ASEEES), Washington DC (2016.11) ▼Great Octobers, Conference on “The Legacy of 1917,” London School of Economics (2017.2) ▼The Winter War and the Occupation of Hokkaido: How Comparison Helps Understanding of Stalin's Geopolitics, Aleksanteri Institute, Helsinki University (2017.3) ▼The Unconsummated Summit: Stalin-Soong and Stalin-Jiang, Late 1945, Conference on “China and Its Neighbors,” East China Normal University (2017.3)

小椋彩 ¶1 学術論文 ▼О восточном мышлении в творчестве Ольги Токарчук, *Славянский альманах*, 3(4):250-266 (2016) ¶5 学会報告・学術講演 ▼レーミゾフの虚実について (アーカイブ調査をもとに), 日本ロシア文学会第 66 回全国大会, 北海道大学 (2016.10.22)

加藤美保子 ¶5 学会報告・学術講演 ▼冷戦後の国際秩序の変容とロシアの位相：中国中心主義か、多様化か, 神奈川大学アジア研究センター「東アジアにおける安全保障秩序の変動」研究グループ・公開講演会, 神奈川大学 (2016.7.15) ▼経済制裁下のロシアのアジア外交, ロシア・東欧学会 2016 年度大会, 京都女子大学 (2016.10.30) ▼Change in the Strategic Quadrangle in Northeast Asia: New Architecture of Cooperation and Competition in Maritime Security, ISA's 58th Annual Convention, TC 82: Post-Soviet States Turning East: A Focus on Asia, Baltimore (2017.2.23)

神竹喜重子 ¶2 その他業績 (論文形式) (5) その他 ▼(科研費補助金報告書)『ロシア音楽の「自己覚醒」に対しマスメディアが果たした役割の研究』2016 年度科学研究費助成事業研究活動スタート支援 (2017) ▼(学会抄録) グループディスカッションと総合討論の記録 (『コンサートとオペラを学際

研究する：ヨーロッパ地域研究における共著論文執筆の方法」[早稲田大学総合研究機構オペラ／音楽劇研究所、2016年度地域研究コンソーシアム次世代ワークショップ、2016年11月19日]27-30, 2017) ▼(演奏会曲目解説)くにたち兼松講堂音楽の森コンサート ベートーヴェン生誕250周年(2020)プロジェクト 一橋大学佐野書院 ベートーヴェン室内楽シリーズ(2016)5月1日午後2時開演 ▼(演奏会曲目解説)第29回くにたち兼松講堂音楽の森コンサート ベートーヴェン生誕250周年(2020)プロジェクト Vol.5「小菅優の『ベートーヴェン詣』」2016年6月12日午後2時開演 ▲5学会報告・学術講演 ▼モノ・オペラ《アンネの日記》,日本ロシア文学会北海道支部会(2016.7.2) ▼モノ・オペラ《アンネの日記》,日本ロシア文学会第66回全国大会,北海道大学(2016.10.22) ▼Влияние С. Прокофьева на музыку в Японии, Международный симпозиум «Прокофьев. XXI век», V Санкт-Петербургский международный культурный форум(2016.12.3) ▼Влияние С. Прокофьева на музыку в Японии, “Otherness in Russian and Eurasian Contexts” SRC/IREEES Joint Symposium, SRC(2017.1.30) ▼Grigory Frid’s *The Diary of Anne Frank between Germany and Russia*,” IMS 2017(2017.3.24)

菊田悠 ▲1学術論文 ▼Venerating the Pir: Patron Saints of Muslim Ceramists in Uzbekistan, *Central Asian Survey*, 6(2):195-211(2017) <<http://dx.doi.org/10.1080/02634937.2016.1261801>> ▲5学会報告・学術講演 ▼Rebel Brides with Smartphones: The Changing Gender Roles in Contemporary Uzbekistan, East Asian Anthropological Association 2016 Meeting in Sapporo(2016.10.16) ▼Four Types of Migrants from Uzbekistan to Russia: Specifying Sources of “Otherness,” SRC/IREEES Joint Symposium, SRC(2017.1.30)

越野剛 ▲1学術論文 ▼災厄によって災厄を思い出す:ベラルーシにおける戦災と原発事故の記憶(寺田匡宏編著『災厄からの立ち直り:高校生のための〈世界〉に耳を澄ませる方法』176-211, あいり出版, 2016) ▲2その他業績(論文形式)(2)研究ノート等 ▼SFアニメ『第三惑星の秘密』と後期ソ連の文化(加部勇一郎編著『共産圏アニメSF研究会論集』2-10, 北海道大学, 2017) ▲5学会報告・学術講演 ▼Утопические образы в современной русской и белорусской литературе, Международная научная конференция «От утопии к катастрофе: советский культурный эксперимент», Педагогический университет(2016.9.1) ▼Вспоминая чеховское путешествие: Остров Сахалин в советско-русской и японской литературе, The 7th East-Asian Conference on Slavic-Eurasian Studies, 華東師範大学, 上海(2016.9.24) ▼Образы Китая и китаизированной России в современной русской и белорусской литературе, 上海師範大学(2016.9.26) ▼アレクシエーヴィチ:ソ連のない世界でソ連を思い出す,日本ロシア文学会第66回全国大会プレシンポジウム「記憶から未来を紡ぐ:現代ロシア文学の30年」,北海道大学(2016.10.21) ▼Как слышится голос советского человека: эстетическая поэтика в творчестве Светланы Алексиевич, 日本ロシア文学会第66回全国大会,北海道大学(2016.10.23)

▼Memory of War in Belarus: Literary and Visual Texts, International Workshop “For the 50th Anniversary of the 50th Anniversary of the October Revolution...: Social and Political Foundations of the Major Ideological Campaigns of the 1965-1970s,” SRC(2017.2.27) ▼Alternative Russian Revolution: Viacheslav Rybakov and Kir Bulychev, International Conference “‘Russian World’ and Other Imaginary Places: (Geo)Political Themes in Post-Soviet Science Fiction and Utopias,” ウプサラ大学(2017.3.24) ▼Русская революция в альтернативных историях: Кир Булычев и Вячеслав Рыбаков, BASEES Annual Conference, ケンブリッジ大学(2017.3.31)

後藤正憲 ▲2その他業績(論文形式)(5)その他 ▼Over Shared Pauses: Impressions of Arctic Circle 2016 in Reykjavik, *Border Bites [KUBS]* 4 <http://cfs.kyushu-u.ac.jp/borders/reports/border_bites> ▲5学会報告・学術講演 ▼Co-operatives and Private Farmers in Reorganization of Agriculture in the Chuvash Republic, Russia, International Research Conference “New Strategies for Co-operatives,” アルメリア, スペイン(2016.5.26) ▼Cutting through Channels: Local Entrepreneurship of Indigenous Actors in Arctic Russia, Summer International Symposium of the SRC “Russia’s Far North: The Contested Frontier,” SRC(2016.7.7) ▼Local Entrepreneurship among Indigenous People of the Arctic Russia, UArctic Congress 2016, サンクトペテルブルグ大学, ロシア(2016.9.15) ▼Constructing of Teaching Materials of Environment Education Related to Local History in Siberia Synthesizing Cultural Memories with Scientific Knowledge, Arctic Circle Assembly 2016, レイキャヴィーク, アイスランド(2016.10.8)

仙石学 ▲1学術論文 ▼ポーランド政治の変容:リベラルからポピュリズムへ?『西南学院大学法学論集』49(2/3):123-154(2017) ▼『『ネオリベラリズム』の後にくるもの』『ポストネオリベラル』期の年金制度(仙石学編『脱新自由主義の時代?:新しい政治経済秩序の模索』1-12; 13-42, 京都大学学術出版会, 2017) ▼中東欧諸国の選挙管理:体制転換後のポーランドとチェコ(大西裕編『選挙ガバナ

スの実態 世界編：その多様性と「民主主義の質」への影響』81-103, ミネルヴァ書房, 2017) ㊦ 2 その他業績 (論文形式) (1) 総説・解説・評論等 ▼ポーランド (宇佐見耕一他編『世界の社会福祉年鑑 2016』233-257, 旬報社, 2017) (4) 翻訳 ▼(エッセイ) パヴォル・パボシュ「日本におけるヨーロッパ研究者」『スラブ・ユーラシア研究センターニュース』148:11-13 (2017) ㊦ 3 著書 ▼(編著)『脱新自由主義の時代? : 新しい政治経済秩序の模索』[地域研究のフロンティア 6] 202 (京都大学学術出版会, 2017) ㊦ 5 学会報告・学術講演 ▼Coping with the Declining Birthrate: Comparing Eastern Europe with Japan, Winter International Symposium of the SRC “25 Years After: Post-Communism’s Vibrant Diversity,” SRC (2016.12.9) このシンポジウムの組織も担当

宗野ふもと ㊦ 2 その他業績 (論文形式) (2) 研究ノート等 ▼シャフリサブズ「フジウム」芸術製品工場について：ソ連期ウズベキスタンにおける手工業の集団化と女性の労働 (帯谷知可編『社会主義的近代とイスラーム・ジェンダー・家族 1』[CIRAS Discussion Paper No. 69] 12-22, 京都大学地域研究統合情報センター, 2017) ㊦ 5 学会報告・学術講演 ▼The Bazaar Trade in Uzbekistan: Its Role in the Living Strategy in Rural Areas, The 7th East-Asian Conference on Slavic-Eurasian Studies, 華東師範大学, 上海 (2016.9.24) ▼The Signs of Change in the Gender Norms of Rural Uzbekistan, East Asian Anthropological Association 2016 Meeting, 北海道大学 (2016.10.16)

高橋沙奈美 ㊦ 1 学術論文 ▼Reexamining the Myth of the Last Tsar’s Family as a Religious Resource, *Russian Studies* (Institute for Russian, East European and Eurasian Studies), 26(2):399-413 (2016) ㊦ 2 その他業績 (論文形式) (1) 総説・解説・評論等 ▼よみがえる宗教 (下斗米伸夫編著『ロシアの歴史を知るための50章』302-307, 明石書店, 2016) (5) その他 ▼開く? 閉ざす?: ふたつのヴァラームにみる宗教文化財とツーリズム『月刊みんぱく』16-17 (2016.10) ▼Ксения Блаженная в Ленинграде: Пост-сталинская религиозная политика и народное православие в Советской России (В.А. Мансуров, отв. ред., *Социология и общество: социальное неравенство и социальная справедливость* (Москва-Екатеринбург, 19-21 октября 2016 года) Материалы V Всероссийского социологического конгресса, 5037-5042, М.: Российское общество социологов, 2016) ㊦ 5 学会報告・学術講演 ▼王の複数の遺体：宗教的資源としてのニコライ二世の不朽体, 「聖地の政治経済学：ユーラシア地域大国における比較研究」研究会, 東北大学 (2017.1.22) ▼ロシア正教会による組織的社会貢献の歴史と可能性, 科研研究会「アジアの政教関係と新しい公共宗教論構築の地域比較研究 (基盤研究 B)」, 北海道大学 (2017.1.28-29) ▼Hidden Attachment to the Time Gone By: Image of the Last Tsar between the West and East, International Workshop “For the 50th Anniversary of the 50th Anniversary of the October Revolution...: Social and Political Foundations of the Major Ideological Campaigns of the 1965-1970s,” SRC (2017.2.27) ▼北ロシアにおける聖地と文化遺産：社会主義の経験と景観対象の変容, 国立民族学博物館共同研究・SRC プロジェクト型共同研究「聖地の政治経済学：ユーラシア地域大国における比較研究」, SRC (2017.3.29)

ダダバエフ・ティムール ㊦ 1 学術論文 ▼The Constructivist Logic of Uzbekistan’s Foreign Policy in the Karimov Era and Beyond, *Uzbekistan Forum and Virtual Special Issue Central Asian Survey*, 1-4 (2016.9.30) <<http://explore.tandfonline.com/page/pgas/cas-uzbekistan-forum>> ▼Evaluations of Perestroika in Post-Soviet Central Asia: Public Views in Contemporary Uzbekistan, Kazakhstan and Kyrgyzstan, *Communist and Post-Communist Studies*, 49(2):179-192 (2016) ▼Water-resource Management in Central Asia: A Japanese Attempt to Promote Water Resource Efficiency, *Journal of Comparative Asian Development* 15(1):64-90 (2016) ㊦ 3 著書 ▼(Yutaka Tsujinaka, Murod Ismailov と共編著) *Social Capital Construction and Governance in Central Asia: Communities and NGOs in Post-Soviet Uzbekistan*, XI; 186 (NY: Palgrave Macmillan, 2017) ▼(Hisao Komatsu と共編著) *Kazakhstan, Kyrgyzstan, and Uzbekistan: Life and Politics during the Soviet Era*, VIII; 147 (NY: Palgrave Macmillan, 2017)

田畑伸一郎 ㊦ 1 学術論文 ▼Factors Underlying Inflation in Russia 2000-2015, *Eurasian Geography and Economics*, 57(6):727-744 (2016) ▼(Tuiara Gavril’eva, Mikhail Prisiazhnyi, Nadezhda Stepanova, Nikita Bochkarev, Ta’iana Sivtseva と共著) Territorial’naia differentsializatsiia v obespechenii dostupnosti elektricheskoi i teplovoi energii v Yakutii, *Arktika. XXI vek. Gumanitarnye nauki*, 2:42-56 (2016) ▼ロシア経済の変動：新しい成長モデルの模索『比較経済研究』53(2):9-22 (2016) ▼縮小するロシア経済：2015年マクロ実績の分析『ロシアNIS調査月報』61(5):36-58 (2016.5) ▼ロシア経済に対する制裁の影響 (2014～2016年)『CISTEC Journal』167:136-143 (2017.1) ㊦ 2 その他業績 (論文形式) (1) 総説・解説・評論等 ▼Research on the Socio-Economic Development of the Russian Far North, *Baltic Rim Economies* (Pan-European Institute, University of Turku), 3:31 (2016) ▼経済体制の転換：石油・ガスに依存する粗野な資本主義の実現 (下斗米伸夫編著『ロシアの歴史を知るための50章』308-313, 明石書

店, 2016) ¶ 5 学会報告・学術講演 ▼ Observations on High Inflation in Russia in 2014 and 2015, 48th Annual Convention of Association for Slavic, East European and Eurasian Studies (ASEEES), Washington DC (2016.11.20) ▼ Economic Development of the Russian Arctic Areas and the Sakha Republic, Ninth International Symposium on C/H₂O/Energy Balance and Climate over the Boreal and Arctic Regions with Special Emphasis on Eastern Eurasia, Academy of Sciences of Sakha Republic, Yakutsk (2016.11.1)

▼ロシア経済に対する制裁の影響 (2014～2016年), 日本安全保障貿易学会第22回研究大会, 拓殖大学 (2016.9.24) ▼ (田畑朋子と) Development of the Arctic Regions of Russia, UArctic Congress 2016, St. Petersburg State University, St. Petersburg (2016.9.15) ▼ Economic Development of the Arctic Regions of Russia (Keynote Speech), UArctic Congress 2016, St. Petersburg State University, St. Petersburg (2016.9.14) ▼ Observations on High Inflation in Russia in 2014 and 2015, 14th European Association of Comparative Economic Studies (EACES) Conference, University of Regensburg, Germany (2016.9.8) ▼ 縮小するロシア経済: 回復はあるのか?, 第17回スラブ・ユーラシア研究センター公開講演会 (2016.6.24)

▼ロシア極東の経済発展における日本と中国の協力, 一帯一路建設と竜江全面的振興の高レベルフォーラム, ハルビン (2016.6.15)

田村容子 ¶ 1 学術論文 ▼ どうやって連環画をかくの? 『連環画研究』6:131-151 (2017) ¶ 2 その他業績 (論文形式) (5) その他 ▼ 男旦 (おんながた) が脱ぐとき: 中国演劇における乳房の表現 (『乳房文化研究会 2015 年度 講演録』125-145, 2016) ¶ 3 著書 ▼ (武田雅哉、加部勇一郎と共編著) 『中国文化 55 のキーワード』298 (ミネルヴァ書房, 2016) ▼ 中国モダニズム研究会『中華文化スター列伝 ドラゴン解剖学 竜の子孫の巻』222 (関西学院大学出版会, 2016) ¶ 5 学会報告・学術講演 ▼ 梅蘭芳を描いた日本人: 福地信世, 華南師範大学日本研究国際交流センター第一回国際シンポジウム「中日比較の視点から始まる日本研究」, 華南師範大学 (2017.3.25) ▼ 紅い革命バレエの系譜: ソ連・中国・ベトナムの社会主義バレエ, 研究会「紅い星に願いを: 社会主義文化の伝播と比較」, 北海道大学 (2016.8.20)

地田徹朗 ¶ 5 学会報告・学術講演 ▼ Disaster Recovery on the Borderland in the Small Aral Sea (Kazakhstan), 57th Annual Conference of Association for Borderlands Studies, Reno, NV (2016.4.15)

▼ The Post-Disaster Recovery in the Aral Sea Region and the Trans-boundary Water Cooperation, International Symposium “Trans-boundary Water Resources Cooperation in Asia: Progress and Prospect,” Institute of International Studies, Fudan University, Shanghai (2016.8.13) ▼ ベレストロイカと環境問題: アラル海救済策をめぐる政策決定過程, ロシア史研究会 2016 年度大会, 東北大学 (2016.10.8) ▼ Reflexive Modernization in the Soviet Union?: “Transformation of Nature” Concept and the Aral Sea, International Workshop “For the 50th Anniversary of the October Revolution...: Social and Political Foundations of the Major Ideological Campaigns of the 1965-1970s,” SRC (2017.2.27)

宍内勇津流 ¶ 5 学会報告・学術講演 ▼ 第二次世界大戦期サハリン周辺海域の航行問題, サハリン・樺太史研究会例会, 北海道大学 (2016.5.21) ▼ 露米会社と日本の北方地域, 日露国際研究集会「コレクション形成史からみる日露関係史」, 北海道大学 (2016.7.10) ▼ 北大スラブ研だけにある資料あれこれ: 図書館と文書館のあいだで, The Age of Discovery: 学術情報ソリューションセミナー 2016 in SAPPORO, 札幌医科大学 (2016.7.15)

長縄宣博 ¶ 2 その他業績 (論文形式) (1) 総説・解説・評論等 ▼ 「第22章 タタール人: ロシア人の身近な他者」「第23章 クリミア・タタール人: 故郷の喪失から生まれた民族」「第47章 テュルクかタタールか: 民族のかたちをめぐる政治」(小松久男編『テュルクを知る 60 章』133-137, 138-142, 277-281, 明石書店, 2016) ¶ 5 学会報告・学術講演 ▼ ソ連とイスラーム世界: ある革命家・外交官の軌跡から, 岩波ロシア革命論集研究会 (ソビエト史研究会), 東京大学 (2016.4.24) ▼ A Conservative Adaptation to Modernity? Abd Allah al-Maadhi Goes to Hajj in 1910, Central Eurasian Studies Society Regional Conference, Kazan Federal University (2016.6.2) ▼ クリミア・タタール人: その過去と現在, 第19回スラブ・ユーラシア研究センター公開講演会 (2016.12.2) ▼ 1905年革命とロシア・ムスリム: 公共圏の出現と権威の変転, 近現代の構造変動セミナー, 東洋文庫 (2017.1.7)

野町素己 ¶ 1 学術論文 ▼ Dative of External Possession in Croatian: From an Areal-Typological Perspective, *Jezikoslovlje*, 17(1/2):453-474 (2016) ▼ Посесивни перфекат у српском језику (с освртом на друге словенске језике) (Motoki Nomachi, ed., *Serbica Iaponica: Doprinos japanskil slavista srpskoj filologiji* [Slavic Eurasian Studies No. 31/Студије о Србима 22], 111-129, SRC/Matica srpska, 2016)

¶ 2 その他業績 (論文形式) (5) その他 ▼ 第6回国際ポーランド学者会議でパネルを組織して『スラブ・ユーラシア研究センターニュース』146:10-12 (2016) ¶ 3 著書 ▼ (編著) *Serbica Iaponica*:

Doprinos japanskih slavista srpskoj filologiji [Slavic Eurasian Studies No. 31/Студије о Србима 22], 346 (SRC/Matica srpska, 2016) ㊦ 5 学会報告・学術講演 ㊦ (招待講演) Is the Kashubian Numeral Jeden “One” an Indefinite Article?, Юбилейна научна сесия в чест на проф. Руселина Ницолова в рамките на Тринадесетите славистични четения, Sofia University, Bulgaria (2016.4.21) ㊦ (Bojan Belic と) Language Emancipation: Vojvodina’s Minority Languages, The 20th Biennial Conference on Balkan and South Slavic Linguistics, Literature and Folklore, University of Utah, USA (2016.4.28) ㊦ (Bojan Belic と) What Is Language Emancipation? A Case Study from the Serbian Vojvodina, Sociolinguistics Symposium 21, University of Murcia, Spain (2016.6.17) ㊦ (招待講演) Dynamika sytuacji kaszubszczyzny w ujęciu teorii emancypacji językowej, VI Światowy Kongres Polonistów, University of Katowice, Poland (2016.6.23) ㊦ (招待講演) Kosovan Gorani in Search of an Ethno-linguistic Identity, 東方キリスト教圏研究会, 京都大学 (2016.7.17) ㊦ Standard Language Ideology among Kashubs, Standard Language Ideology in the Slavic Lands, SRC (2016.8.5) ㊦ Standard Languages and Standard Language Ideology in Poland, Standard Language Ideology in the Slavic Lands, SRC (2016.8.6) ㊦ Use of the Numeral Jeden “One” as an Indefinite Marker in Kashubian in Comparison with Other Slavic Languages, Zasedání Komise pro gramatickou stavbu slovanských jazyků při MKS, Charles University in Prague, Czech Republic (2016.9.15) ㊦ I Am a Bulgarian, but I Am Not THAT Bulgarian, The 11th Slavic Linguistics Society Annual Meeting, University of Toronto, Canada (2016.9.25) ㊦ (基調講演) On the Project of the West Polissian Literary Language Being Revisited after 30 Years, Україністика і слов’янський світ, University of Belgrade, Serbia (2016.11.18) ㊦ (Wayles Browne と) Newly Recognized Old Languages: Ausbau Languages and Their Changes after the Disintegration of Yugoslavia, Winter International Symposium of the SRC “25 Years After: Post-Communism’s Vibrant Diversity,” SRC (2016.12.8) ㊦ West Polissian as an Endangered Language, Endangered Languages and Their Revitalization in Central Europe, 早稲田大学 (2016.12.11) ㊦ Language and Identity among the Kashubs in Canada: Insights from the Latest Fieldwork, Hokudai Day 2017, University of Helsinki, Finland (2017.3.3)

麓慎一 ㊦ 1 学術論文 ㊦ 近代日本における北洋漁業の展開：中国との関係を中心に（中国語）『海大日本研究』（中国海洋大学）23-32 (2016.9) ㊦ 日露戦争と千島列島：報效義会の活動について『新潟大学教育学部紀要』9(2):253-260 (2017.3) ㊦ 露領沿海州水産組合の成立について：郡司成忠を中心に『環東アジア研究』10:18-33 (2017.3) ㊦ 2 その他業績（論文形式）(2) 研究ノート等 ㊦ ロシアの文書館史料の利用と公開について『歴史学研究』954:17-19 (2017.2) ㊦ 19 世紀後半における日露関係とサハリン島の諸民族（『第31 回北方民族文化シンポジウム 網走 環北太平洋地域の伝統と文化 1 サハリン』27-31, 2017.3) ㊦ 5 学会報告・学術講演 ㊦ 19 世紀後半における日露関係とサハリン島の諸民族, 第31 回北方民族文化シンポジウム 網走 環北太平洋地域の伝統と文化 1 サハリン (2016.10.16)

みせらねあ

◆ 木村汎北大名誉教授 ◆

フジサンケイグループから第32 回正論大賞を受賞

本センターの歴史を語るうえで欠かせない「顔」の一人である、木村汎北海道大学名誉教授がこのたび、フジサンケイグループから正論大賞を受賞されました。2017 年 2 月 20 日の夕方にホテルニューオータニで開催された贈呈式には、本学総長代理として岩下がお祝いに駆けつけました。400 名近い参加者のなかには、今、話題の小池百合子都知事の姿もあり、また安倍晋三首相のビデオメッセージが流されるなど大いに盛り上がりました。なかでも目を引いたのは、受賞者の発表とともに、幼少時からの写真が大きなスクリーンでスライドで流され、後方の花道から受賞者が登壇するというショーアップでした。かつてエンターテイメントで視聴率を独占していたフジテレビならではの演出のもと、「自由と民主主義を守り、個人と国家の尊厳が大切にされる社会を築くために、『正論路線』を堅持する」と強調する熊坂産経新聞社長の主催者挨拶が印象的でした。



受賞会場での木村ご夫妻 向かって右は岩下

に、クラーク像で同僚たちと映る若き木村先生のお顔をスライドで見ると、先生のスラブ・ユーラシア研究コミュニティへのこれまでの多大な貢献を思い出しました。先生は受賞スピーチで、プーチンがいるかぎり引退はしない、と生涯現役を宣言され、プロ野球の野村克也捕手に自らをなぞらえ、「生涯ロシアウォッチャー」と語り、会場を沸かせていました。先生の受賞を改めてお祝い申し上げるとともに、今後も先生がご活躍を続ける姿を楽しみにしたいと心より思いました。[岩下]

今回の木村名誉教授の受賞は、「ロシアの歴史やクレムリンの内情について徹底した考察を重ね、プーチン大統領やエリツィン元大統領ら指導者像を精緻に描き上げることで、この巨大国家の実像を浮かび上がらせた」こと、長年、産経新聞で「正論」欄の執筆メンバーとして貢献されたことなどが評価されたようです。

幼少時から京都大学の学生時代、そして現在のご家族の写真とともに

◆ 「野町素己准教授の受賞を祝う会」開催される ◆

当センターの野町准教授が日本学士院学術奨励賞と日本学術振興会賞を同時に受賞したことについては、すでに前号（148号）のセンターニュースにてお知らせいたしましたが、5月28日にはこの受賞をお祝いする会が、ホテルマイステイズ札幌アспенにおいて開催されました。会には野町氏の大学院時代の指導教員であった沼野充義東京大学教授をはじめ、野町氏およびセンターに縁のある25名が参加し、盛会となりました。参加者からは、この受賞を契機として野町氏の研究がさらに発展することを期待するスピーチが多くなされ、氏への期待の高さがうかがわれる会となりました。[仙石]



全員で

◆ センターの役割分担 ◆

2017年度のセンター専任教員の役割分担は、以下の通りです。〔仙石〕

センター長.....	仙石
副センター長.....	田畑
拠点運営委員会委員.....	岩下／宇山／ウルフ／仙石／田畑

【学内委員会等】

教育研究評議会、部局長等連絡会議.....	仙石
教務委員会.....	仙石
図書館委員会.....	岩下
情報ネットワークシステム学内共同利用委員会.....	山村
環境負荷低減推進員.....	山村
国際担当教員.....	ウルフ
欧州ヘルシンキオフィス所長.....	田畑
RJE3 学内運営委員会.....	田畑
低温科学研究所拠点運営委員会.....	仙石
北極域研究センター運営委員会.....	田畑
情報基盤センター協議員.....	山村
外国人招へい教員候補者選考委員会.....	仙石
技術支援本部運営委員会.....	仙石
社会科学実験研究センター運営委員会.....	山村
ハラスメント予防推進員.....	岩下

【学外委員会等】

国立大学附置研究所・センター長会議.....	仙石
国立大学共同利用・共同研究拠点協議会.....	仙石
JCREES 事務局.....	仙石／高橋
地域研究コンソーシアム理事.....	仙石
地域研究コンソーシアム運営委員.....	野町／越野
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所拠点運営委員.....	宇山
ICCEES 情報.....	野町

【センター内部の分担】

大学院講座主任.....	宇山
教務委員.....	長縄
入試委員.....	山村
総合特別演習担当.....	(前期) 野町 (後期) 山村
全学教育科目責任者.....	長縄
全学教育科目総合講義.....	岩下
全学教育科目演習.....	家田
将来構想.....	岩下／宇山／田畑／長縄
点検評価.....	田畑／長縄
夏期シンポジウム.....	ウルフ／岩下／油本*／加藤／ブル
冬期シンポジウム.....	長縄／宇山／高橋／菊田
図書.....	岩下／兔内
情報・広報.....	野町／菊田／大須賀
予算.....	田畑
共同利用・共同研究公募.....	田畑
客員教員.....	山村
外国人研究員プログラム.....	山村／ウルフ／大須賀

ヤンチェク.....	岩下
ヴィクトロフ.....	田畑
クズネツォフ.....	ウルフ
ススロフ.....	越野
シプカ.....	野町
マリコフ.....	宇山
非常勤研究員.....	越野
鈴川・中村基金.....	家田
公開講座.....	岩下／高橋*／加藤
公開講演会.....	長縄／油本／菊田／高橋／大須賀
専任研究員セミナー（助教・非常勤研究員を含む）.....	田畑
その他研究会・講演会.....	野町／油本／菊田／高橋／大須賀
研究所一般公開.....	菊田*
サマースクール.....	加藤／ブル
博物館.....	加藤／ブル
NIHU 北東アジア（HP、オンライン報告書）.....	加藤
UBRJ（HP、『境界研究』、 <i>Eurasia Border Review</i> ）.....	岩下／ブル
その他諸行事企画.....	越野／高橋*
雑誌編集委員会.....	宇山／ウルフ／越野／長縄／野町
<i>Acta Slavica Iaponica</i>	野町／ウルフ／大須賀
『スラヴ研究』.....	長縄／大須賀
スラブ・ユーラシア叢書、SES、研究報告集.....	越野／大須賀
ニューズレター和文（メルマガ・HP コンテンツ）.....	宇山／（仙石）／大須賀
ニューズレター欧文（メルマガ・HP コンテンツ）.....	ウルフ／（仙石）／大須賀

* 助教3人で担当するなかでの代表者を示す。

◆ 人物往来 ◆

ニュース148号以降のセンター訪問者（客員、道央圏を除く）は以下の通りです（敬称略）。
[仙石／大須賀]

- 2月15日 池田嘉郎（東京大）
- 2月17日 Evgeny Golovko（ロシア学士院言語学研究所）
- 2月18日 岡田知子（東京外国語大）、向後恵里子（明星大）、高山陽子（亜細亜大）、福田宏（愛知教育大）
- 2月27日 Felix Herrmann（プレーメン大、ドイツ）、Alexander Titov（クイーンズ大ベルファスト、英国）
- 2月28日 佐橋亮（神奈川大）
- 3月4日 荒木繁（木彫家）、大谷茂之（八雲町郷土資料館・八雲町木彫り熊資料館 学芸員）
- 3月5日 栗林大（中央大）、香坂直樹（跡見学園女子大）、佐藤勘治（獨協大）、辻河典子（近畿大）、松岡格（獨協大）、森下嘉之（茨城大）
- 3月6日 塩谷哲史（筑波大）、白村直也（内閣府日本学術会議）
- 3月9日 Lhagvadorj Dorjburegedaa（モンゴル生命科学大）、Battur Soyollham（Bagatumurch Co. Ltd.、モンゴル）、上垣彰（西南学院大）、高倉浩樹（東北大）、谷口武俊（東京大）、土屋智子（特定非営利活動法人HSE リスク・シーキューブ）
- 3月13日 大槻忠史（群馬大）
- 3月19日 神長英輔（新潟国際情報大）、倉田有佳（極東連邦大・函館）、エドワルド・パールィシェフ（筑波大）
- 3月21日 塩川伸明（東京大名誉教授）
- 3月23日 和崎聖日（中部大）
- 3月26日 天野尚樹（山形大）、井竿富雄（山口県立大）
- 3月27日 森井裕一（東京大）
- 3月28日 片山博文（桜美林大）、徳永昌弘（関西大）、野部公一（専修大）
- 3月29日 服部文昭（京都大）

- 3月30日 川口幸大（東北大）、辻河典子（近畿大）
4月26日 Li Chengri（中国社会科学院亚太与全球战略研究院）、Zhong Feiteng（同）
5月10日 朝妻幸雄（日露経済交流コンサルタント）、下斗米伸夫（法政大）、矢島隆志（日露エコノミクスセンター株）
5月12日 益尾知佐子（九州大）
5月15日 福原裕二（島根県立大）
5月16日 Timothy Colton（ハーヴァード大、米国）
5月22日 小泉悠（公益財団法人未来工学研究所）
5月26日 天野尚樹（山形大）

◆ 研究員消息 ◆

野町素己研究員は2016年9月23～29日の間、“The 11th Slavic Linguistics Society Annual Meeting”出席・研究報告・意見交換及び現地調査のため、カナダに出張（前々号記載もれ）。2017年1月3～10日の間、研究打合せ・資料収集及び現地聞き取り調査のため、ポーランドに出張。2月27日～3月8日の間、北海道大学交流デー（ヘルシンキ大学）研究交流セミナー出席・研究報告・意見交換及び研究打合せ・資料収集のため、フィンランドに出張。3月22～28の間、書評会出席・研究発表及び現地調査のため、セルビアに出張。

ウルフ・ディビッド研究員は1月20～29日の間、資料収集のため、米国に出張。2月23日～3月5日の間、カンファレンス出席・研究報告・研究打合せ及び資料収集のため、英国に、また北海道大学交流デー（ヘルシンキ大学）研究交流セミナー出席・研究打合せのため、フィンランドに出張。3月9～15日の間、カンファレンス出席・研究報告・研究打合せのため、中国に出張。

鬼内勇津流研究員は2月7～21日の間、資料収集のため、ロシアに出張。

宇山智彦研究員は2月17～22日の間、中央アジア諸国日本研究カンファレンス出席・研究打合せのため、カザフスタンに出張。3月30日～4月5日の間、“The BASEES 2017 Annual Conference”出席のため、英国に出張。

田畑伸一郎研究員は3月1～5日の間、北海道大学交流デー（ヘルシンキ大学）研究交流セミナー出席・研究打合せのため、フィンランドに出張。3月12～17の間、現地調査のため、中国、香港に出張。3月30日～4月9日の間、“The Arctic Science Summit Week 2017”出席のため、チェコに出張。

山村理人研究員は3月4～15日の間、調査・資料収集のため、ロシアに出張。

越野剛研究員は3月7～9日の間、資料調査のため、中国に出張。3月22～24日の間、国際シンポジウム“Languages of Utopia: (Geo)political Identity-Making in Post-Soviet Russian Speculative Fiction”参加・研究報告のため、スウェーデンに出張。3月25日～4月4日の間、“The BASEES 2017 Annual Conference”出席・研究発表・資料調査及び研究打合せのため、フランス、英国に出張。

長縄宣博研究員は3月12～26日の間、資料収集のため、ロシアに出張。

岩下明裕研究員は3月25日～4月3日の間、研究打合せ、研究報告及び資料収集のため、ニュージーランドに出張。

目 次

研究の最前線	1
2017 年度夏期国際シンポジウム《中国とロシア・北東アジアの断層線：百年にわたる競争的協力》の予告／NIHU 北東アジア地域研究：ホームページをリニューアルしました！／公開講座「境界地域から北東アジア国際関係を考える」開講中／専任・非常勤研究員セミナー／研究会活動	
人事の動き	8
助教の就任／特任助教・学術研究員紹介／2017 年度の客員教授・准教授／事務職員の異動	
学界短信	9
学会カレンダー	
大学院だより	10
社会人大学院生の経験から by 長友謙治..... 10	
図書室だより	12
ソ連共産党・国家文書の購入状況	
編集室だより	13
Slavic Eurasian Studies 31/Studije o Srbima 22 <i>Serbica Iaponica: Doprinosi japanskih slavista srpskoj filologiji</i> の刊行／『スラヴ研究』／ <i>Acta Slavica Iaponica</i> ／『境界研究』第7号刊行／ <i>Eurasia Border Review</i> 7(1) 刊行	
会議	16
センター協議委員会	
誰が 何を どこで	16
みせらねあ	21
木村汎北大名誉教授フジサンケイグループから第32回正論大賞を受賞／「野町素己准教授の受賞を祝う会」開催される／センターの役割分担／人物往来／研究員消息	

2017 年 6 月 9 日発行

編集責任	大須賀みか
編集協力	宇山智彦
発行者	仙石 学
発行所	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 060-0809 札幌市北区北 9 条西 7 丁目 Tel.011-706-3156、706-2388 Fax.011-706-4952 インターネットホームページ： http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/
